

# 日本式福利 ベトナムで復活

ベトナムに進出した日系企業が、日本式の福利厚生に力を入れている。夕夕で出されるおいしい食事や誕生日会は当たり前。社員旅行や運動会など、いまや日本でもあまり見られないものも並ぶ。現地の経営者は、日本では古いやり方が今のベトナムでの経営に合っていると口をそろえる。

## 進出企業 社員定着狙う

首都ハノイ郊外にあるプラ  
スチック成形メーカー、天馬  
(東京)のベトナム工場。食  
堂ではライスと炒めた野菜や  
豚肉、副菜などバランスがと  
れた昼食が並ぶ。3種類のメ  
ニューから選べ、全て無料。  
昼時には作業服姿の社員ら  
列をつくる。グエン・ボア・  
アンさん(40)は「おいしいの  
でやる気が出る」と喜ぶ。  
元々は現地の業者に任せて  
いたが、献立は揚げ物ばかり。  
食堂にゴミブリも出るな  
ど、社員の満足度が低かつ  
た。そこで日本の給食大手グ  
リーンハウス(東京)に任せ  
た。現地法人の神谷義隆社長  
は「日本のレベルの高い食堂  
に社員も満足してくれた」。



給食大手グリーンハウスが運営する食堂で昼食を選ぶ天馬の従業員=ベトナム・バクニン省、西山明宏撮影

天馬では毎年の社員旅行は  
全員、本人分の負担なしに国  
内の観光地に泊まりがけで行  
き、誕生日も毎月祝う。1年  
前に月3%あった離職率が今  
は0.3%に下がった。  
スポーツも大切な要素にな  
りつつある。

ハノイ郊外で住友商事が運  
営する工業団地では毎年春、  
企業対抗の駅伝大会が開かれ  
る。今年で12回目。ベトナム  
人に駅伝へのなじみは薄いが、  
休日に約400人が参加し、  
観戦する家族などを合わせると  
1千人を超える。選手  
の横をバイクで伴走するなど  
応援で盛り上がるという。

住友電気工業のグループ会  
社でワイヤハーネスをつくる  
SDベトナムインダストリー  
ズは、男女7人ずつでチーム  
をつくって参加。中西豊社長  
は「いつも仕事が終わるとま  
っすぐに帰るのが、終業後に  
みんなで練習していて驚い  
た」。

中小企業でも同じような取  
り組みが広がる。南部のホー  
チミン市郊外に進出したプラ  
ント設備業のソルテック工業  
(大阪市)は、工場の横に数百  
万円かけてフットサル場をつ  
くった。社員は昼休みにも興  
じるほどで「我々の誇りだ」  
と社員の一人は自慢げだ。  
現地では珍しい社内報も毎

## 無料の昼食・駅伝大会・社員旅行…

月発行。社員の自己紹介や社  
員旅行の思い出を載せて、社  
員同士のつながりを意識した  
試みが続ける。現地法人の薛  
悠司社長は「日本の昔のやり  
方が案外とうまくいく」と話  
す。

各社がこうした活動に力を  
入れるのは、企業への忠誠度  
を高めて、生産性を上げる狙  
いがある。

ベトナムでは転職が多く、  
離職率が高いと年間で2割に  
達するとも言われる。これら  
は社員の習熟度は伸びず、企  
業の生産性は上がらない。長  
期間働いてもらうには、満足  
度を高める必要があった。

中国や韓国、ベトナム企業  
は日系ほど福利厚生に力を入  
れないため、人材確保で有利  
に働く効果もあるという。

ベトナムの経済状況もあ  
る。工場労働者の月収は20  
0ドル以下。多くの人はスポー  
ツや食事にかける余裕は小さ  
く、旅行などを楽しむにして  
いる。経営者の一人は「ご飯  
がまずいとストライキ、旅行  
がないと仕事を辞めてしまっ  
うので、福利厚生の充実は重要  
だ」と指摘する。(西山明宏)



毎月、社員の誕生日会を開くエボラブルアジア=ホーチミン市